



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月5日

上場会社名 クラボウ(倉敷紡績株式会社)
 コード番号 3106 URL <https://www.kurabo.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 藤田 晴哉
 問合せ先責任者(役職名) 取締役執行役員経理部長 (氏名) 藤井 裕詞
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 06-6266-5136

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	87,523	17.2	1,731	41.5	2,714	33.9	1,632	52.4
2020年3月期第3四半期	105,724	9.1	2,959	23.6	4,109	6.0	3,429	2.2

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 2,707百万円 (39.5%) 2020年3月期第3四半期 4,473百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	79.31	
2020年3月期第3四半期	162.96	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	163,432	91,849	55.4
2020年3月期	165,542	90,383	53.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 90,608百万円 2020年3月期 88,978百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		60.00	60.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	128,000	10.4	3,000	33.9	3,600	34.4	2,000	46.4	97.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.8'2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期3Q	22,356,228 株	2020年3月期	22,356,228 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2021年3月期3Q	1,771,455 株	2020年3月期	1,771,145 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期3Q	20,584,999 株	2020年3月期3Q	21,046,850 株
------------	--------------	------------	--------------

(注)当社は、取締役等に対し、信託を用いた株式報酬制度「株式交付信託」を導入しており、当該信託口が保有する当社株式を自己株式に含めて記載しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料P.3'1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明、をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2020年4月1日～2020年12月31日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大により2020年4月には緊急事態宣言が発出され、様々な自粛や制限に伴い社会経済活動が停滞しました。5月に緊急事態宣言が解除され、一旦は社会経済活動レベルの引き上げの動きがありましたが、その後、新型コロナウイルス感染の世界的な再拡大があり、引き続き景気はきびしい状況で推移しました。

このような環境下にあつて当社グループは、従業員やステークホルダーの皆様の安全・健康を最優先として新型コロナウイルスの感染拡大の防止と事業活動・生産活動への影響の最小化に努めるとともに、中期経営計画「Creation' 21」の目標達成に向け尽力しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は大きく、売上高は875億円（前年同期比17.2%減）、営業利益は17億3千万円（同41.5%減）、経常利益は27億1千万円（同33.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は16億3千万円（同52.4%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(繊維事業)

原糸分野及びカジュアル分野は、4月の緊急事態宣言の発出による取引先の店舗休業や、その後も引き続き個人消費の低迷の影響が大きく、受注が減少し、減収となりました。

ユニフォーム分野は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた建設業及び製造業向けユニフォームの販売不振により、受注が減少し、減収となりました。

なお、抗菌・抗ウイルス機能素材の販売は好調でした。

海外子会社は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、ブラジルやタイの受注が減少したことにより、減収となりました。

この結果、売上高は304億円（前年同期比20.1%減）、営業損失は16億3千万円（前年同期は営業損失14億1千万円）となりました。

(化成品事業)

自動車分野は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う自動車メーカーの操業停止などの影響を受けて、国内外ともに受注が減少し、減収となりました。なお、中国の子会社は受注が回復しております。

機能樹脂分野は、半導体製造装置向け樹脂加工品が回復傾向にあり、また新型コロナウイルス感染拡大への対応として新たに開発した医療用ガウンの受注もありましたが、各種イベントの自粛に伴い販売促進用のクリアフィルム用フィルムなどが低調で、減収となりました。

住宅建材分野は、2019年10月の消費税率引き上げや、新型コロナウイルスの感染拡大による新設住宅着工戸数の低迷の影響を受けて、減収となりました。

この結果、売上高は350億円（前年同期比16.5%減）となりましたが、コスト低減により営業利益は8億円（同28.1%増）となりました。

(環境メカトロニクス事業)

エレクトロニクス分野は、膜厚計や液体成分濃度計は堅調に推移しましたが、子会社における半導体洗浄関連装置の大型案件の減少や新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた国内外の全般的な営業活動の停滞により、減収となりました。

エンジニアリング分野は、バイオマス関連設備は順調に推移しましたが、プラント関係の工事が少なく、減収となりました。

バイオメディカル分野は、2020年3月より販売を開始した新型コロナウイルス抗体検査試薬キットが好調に推移し、また遺伝子受託解析サービスも順調で、増収となりました。

工作機械分野は、国内外ともに新型コロナウイルス感染拡大に伴い設備投資が低調で、販売が減少し、減収となりました。

この結果、売上高は125億円（前年同期比18.5%減）、営業利益は9億7千万円（同44.0%減）となりました。

(食品・サービス事業)

食品分野は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う在宅勤務の継続や外出の減少による内食需要の高まりから、成型スープやシリアル向けフリーズドライフルーツの販売が増加し、増収となりました。

ホテル分野は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、宴会及び宿泊のキャンセルが相次ぎ、また、2020年5月にホテル全館の臨時休業を行ったことや、「Go Toトラベル事業」の効果も限定的であったことから、減収となりました。

この結果、売上高は64億円（前年同期比9.5%減）、営業利益は2億1千万円（同60.2%減）となりました。

(不動産事業)

不動産事業は、一部の賃貸物件の契約期間満了により、売上高は30億円（前年同期比3.9%減）となり、設備の更新等による修繕維持費の増加により、営業利益は21億4千万円（同4.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、投資有価証券は増加しましたが、売上債権が減少したことなどにより、1,634億円と前連結会計年度末に比べ21億円減少しました。

負債は、仕入債務が減少したことなどにより、715億円と前連結会計年度末に比べ35億円減少しました。

純資産は、為替換算調整勘定は減少しましたが、その他有価証券評価差額金が増加したことなどにより、918億円と前連結会計年度末に比べ14億円増加しました。

以上の結果、自己資本比率は1.7ポイント上昇して55.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期（2020年4月1日～2021年3月31日）の連結業績予想につきましては、現時点では2020年11月9日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,808	18,288
受取手形及び売掛金	33,441	30,919
有価証券	607	1
商品及び製品	11,016	10,301
仕掛品	6,906	7,990
原材料及び貯蔵品	4,500	4,418
その他	2,252	2,260
貸倒引当金	△49	△50
流動資産合計	77,483	74,131
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	24,816	24,741
その他（純額）	27,504	26,589
有形固定資産合計	52,320	51,331
無形固定資産	1,233	1,254
投資その他の資産		
投資有価証券	30,709	33,018
その他	4,231	4,103
貸倒引当金	△436	△405
投資その他の資産合計	34,503	36,715
固定資産合計	88,058	89,301
資産合計	165,542	163,432
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,030	17,542
短期借入金	18,707	18,270
未払法人税等	838	674
賞与引当金	1,431	578
その他	8,057	8,377
流動負債合計	48,066	45,443
固定負債		
長期借入金	2,267	2,083
役員退職慰労引当金	115	109
株式報酬引当金	19	46
退職給付に係る負債	12,858	12,834
その他	11,830	11,064
固定負債合計	27,092	26,139
負債合計	75,158	71,583

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	22,040	22,040
資本剰余金	15,254	15,254
利益剰余金	57,622	58,013
自己株式	△4,227	△4,227
株主資本合計	90,689	91,080
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,061	9,326
繰延ヘッジ損益	14	△19
為替換算調整勘定	△8,112	△9,198
退職給付に係る調整累計額	△675	△580
その他の包括利益累計額合計	△1,711	△471
非支配株主持分	1,405	1,240
純資産合計	90,383	91,849
負債純資産合計	165,542	163,432

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	105,724	87,523
売上原価	86,885	71,663
売上総利益	18,838	15,860
販売費及び一般管理費	15,879	14,128
営業利益	2,959	1,731
営業外収益		
受取利息	18	19
受取配当金	1,026	940
持分法による投資利益	29	—
貸倒引当金戻入額	221	—
その他	389	672
営業外収益合計	1,684	1,632
営業外費用		
支払利息	237	175
持分法による投資損失	—	10
その他	296	464
営業外費用合計	533	649
経常利益	4,109	2,714
特別利益		
投資有価証券売却益	126	992
補助金収入	—	91
固定資産売却益	—	23
退職給付制度改定益	750	—
為替換算調整勘定取崩益	30	—
特別利益合計	906	1,107
特別損失		
事業構造改善費用	—	506
操業休止関連費用	—	377
投資有価証券評価損	182	87
関係会社株式評価損	—	52
固定資産処分損	—	20
減損損失	149	—
特別損失合計	331	1,044
税金等調整前四半期純利益	4,684	2,778
法人税等	1,452	1,222
四半期純利益	3,231	1,555
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△197	△77
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,429	1,632

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	3,231	1,555
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,196	2,264
繰延ヘッジ損益	6	△33
為替換算調整勘定	△58	△1,131
退職給付に係る調整額	77	94
持分法適用会社に対する持分相当額	18	△42
その他の包括利益合計	1,241	1,152
四半期包括利益	4,473	2,707
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,548	2,872
非支配株主に係る四半期包括利益	△75	△164

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する仮定)

前事業年度の有価証券報告書の追加情報に記載した新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する仮定について、重要な変更はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	繊維事業	化成品 事業	環境メカ トロニク ス事業	食品・サー ビス事業	不動産 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	38,066	41,914	15,393	7,128	3,220	105,724	—	105,724
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	28	27	175	31	314	577	△577	—
計	38,095	41,941	15,569	7,160	3,534	106,301	△577	105,724
セグメント利益 又は損失 (△)	△1,414	626	1,742	550	2,249	3,754	△795	2,959

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△795百万円には、全社費用△796百万円及びその他の調整額1百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない研究開発費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	繊維事業	化成品 事業	環境メカ トロニク ス事業	食品・サー ビス事業	不動産 事業	計	調整額	合計
減損損失	149	—	—	—	—	149	—	149

(注) 繊維事業の構造改革に伴い、操業停止を決議した丸亀工場に係るものであります。

II 当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	繊維事業	化成品 事業	環境メカ トロニク ス事業	食品・サー ビス事業	不動産 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	30,410	35,018	12,548	6,452	3,093	87,523	—	87,523
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	33	11	321	28	340	735	△735	—
計	30,443	35,029	12,870	6,480	3,434	88,258	△735	87,523
セグメント利益 又は損失 (△)	△1,639	802	975	219	2,144	2,502	△770	1,731

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△770百万円には、全社費用△772百万円及びその他の調整額2百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない研究開発費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

(取得による企業結合)

当社は、2020年12月22日開催の取締役会において、株式会社セイキ（以下、「セイキ社」といいます。）の全株式を取得し、子会社化することについて決議し、2020年12月23日付で株式譲渡契約を締結し、2021年2月1日付で全株式を取得しました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社セイキ

事業の内容：自動車関連などの電子部品、コネクタ、OA機器などのFA設備の設計製作

(2) 企業結合を行った主な理由

当社グループの環境メカトロニクス事業では、色のセンシング技術を活用した検査・計測システム、環境プラント、バイオ関連製品、工作機械の開発・製造・販売を積極的に推進しており、近年では、高速3Dビジョンセンサーを活用した産業用ロボットシステムやカラー画像処理技術による高速での検査が可能な検査・計測システムなどの販売拡大に注力しています。

一方、セイキ社は、FA設備の設計製作で40年以上の実績があり、完全オーダーメイドのFA設備の開発力と自社で設計、加工、組立、調整、据付・保守までを行う一貫体制によるスピーディーな対応力などの強みを有しています。現在は、主に電子部品、自動車部品、精密機械メーカー向けFA設備の開発販売に注力しています。

この度、FA設備市場において両社の強みを活かした事業展開を行い、環境メカトロニクス事業における業容拡大を図ることを目的に、セイキ社の全株式を取得いたしました。

(3) 企業結合日

2021年2月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更ありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

当事者間の合意により非開示とさせていただきます。

3. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

4. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。